

松本国際高校女子硬式野球部員によるアオダモ苗木の植樹【配布資料】

2021年・令和3年5月15日  
長野県高校野球OB・OG連盟

日時：2021年・令和3年5月15日（土）午前9時30分～

場所：松本市四賀球場（松本市会田）ライトスタンド後方の外周路

主催：長野県高校野球OB・OG連盟（池口 良明 会長、加盟45校OB会）

植樹者：松本国際高校女子硬式野球部（長田 夏美 監督）の部員たち

目的：（1）木製バット製造の原材料であるアオダモの安定的な資源確保が困難になってきていて危惧される事態を受けて将来的な供給確保の一助とし、植樹作業を通じてスポーツも自然環境や資源問題と関連していることを学ぶ。

（2）昨年7月、四賀地区の住民有志の発案により、四賀球場で最初のアオダモ植樹が行われており、この貴重な活動の受け継ぎに寄与する。

内容：昨年7月に苗木21本が植えられた延長上に、今回は20本の苗木を手植えする。

苗木の手配や植栽穴の掘削作業などの依頼先は昨年同様で、（株）信州グリーン。

経過：本来、15日には、長野県内で初の女子野球公式戦として関東女子野球連盟主催の「ヴィーナスリーグ戦」が計画され、松本国際チームや対戦相手の関東地区チームの出場選手たちによる植樹を見込んでいた。しかし、コロナ禍で首都圏の緊急事態宣言と、まん延防止等重点措置の期限が今月末まで延長されたのに伴って中止となり、松本国際のチーム練習日に切り替えられた。

昨年の植樹：地元の「四賀元気プロジェクト（丸山則行会長）」と「四賀野球を愛する会（望月市朗会長）」の発案で実現。夏の甲子園をかけた第102回全国高校野球選手権長野大会がコロナ禍で中止され、代替で独自の県大会が四賀球場でも行われた際、中信地区21校の高校球児らの手で苗木が植えられた。

アオダモ：モクセイ科トネリコ属の落葉広葉樹。日本では北海道から九州まで広く分布。堅くて強く、粘りがあり、スポーツ界では野球バットのほか、スキー板やテニス・ラケットなどにも使用される。アオダモ1本からバット4本が取れるが、成長が遅くバット素材になるには約70年かかる。素材の確保が困難になっており、NPO法人「アオダモ資源育成の会」をはじめ全国各地で植樹活動が続けられている。

当連盟の担当者：副会長・山田雄一（企画・女子野球・広報担当）

携帯：090-3080-3090

以上